



感慨をきざむ記念碑

|   |   |
|---|---|
| 文 | 旅 |
| 芸 | と |

奥の細道随想

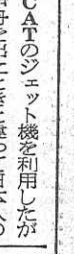
虚構と芸術のあいだ

波版の「西徼俳文集」と角川版は木々には、また、青葉、若葉の訳註、扱ったのであるが、訳になっていないといった具合に諸家の異説が随所にあつてある場合には虚構（フイクシ）また、遊女についてのくだりは「奥の細道」の文中の白眉ともいふべき書出しの「旅立ち」「松島」や「平泉」での

抜題である。近年、随行者の門弟、曾良の「随行日記」や「俳諧留置」が発見されてから、「奥の細道」の日付や、句作の場所、句作の前提となった天候について、曾良日記との喰違いが指摘され、色々と論議されては、紀行文中、越中市振（実は越後）となっているが、この句作は市振ではなく、出雲崎で、そこでは天の河は、佐渡の方に横たわらないで、町筋と平行した方向に見えし、また、この句の前句「文月や六月も常の夜語りはべれば、書きとめはべ

既に申込期限をすぎました  
るコースもありますから大  
連絡ください。

を願つたという。こ  
から舟を作るまでの



東京都千代田区西神田 1-3 (幅ビル)  
電話 (262) 2 4 2 6・2 9 3 2